様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　 ９ 月 １７ 日現在

機関番号：２２５０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2016～2019
課題番号：１６Ｋ１２２０３

研究課題名（和文）がん高齢者の地域生活への移行と継続を支援する看護師のスキルアップ教育枠組みの構築

研究課題名（英文）Development of a "Skills Upgrading Education Framework" for nurses engaged in assisting older people receiving palliative care to transition to a place of living in the community in which they live

研究代表者
杉本　知子（Sugimoto, Tomoko）

千葉県立保健医療大学・健康科学部・教授

研究者番号：００３１４９２２

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,600,000円

研究成果の概要（和文）：緩和ケアを受ける高齢がん患者（以下、高齢がん患者とする）を地域の中で支えていく体制づくりに役立つ示唆を得ること目指し、26名の看護師を対象とした半構成的面接調査を実施した。
面接調査によって収集したデータを帰納的に分析し、高齢がん患者が生活の場を病院から住み慣れた地域に移行したり、その地域での生活を継続していくための影響要因を明らかにした。加えて、高齢がん患者の生活の場の移行や、住み慣れた地域での生活の継続を支援する看護師に求められる要素について具体的に示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
近年わが国では、人口の高齢化に伴い緩和ケアを受ける高齢がん患者を地域の中で支えていく体制づくりが求められている。
本研究では、高齢がん患者の生活の場の移行過程等に携わる看護師の実践力の向上を目的とした教育枠組みの構築を目指しており、この教育枠組みが構築されることにより、高齢がん患者を地域の中で支える体制づくりをすすめる際の一資料になるのではないかと考える。

研究成果の概要（英文）：A semi-structured interview survey was conducted with 26 nurses in order to obtain suggestions for building a support system for elderly cancer patients receiving palliative care (hereinafter referred to as "elderly cancer patients") in the community.
The data collected through the interview survey was analyzed qualitatively and inductively. The results of the analysis revealed the factors influencing the transition of elderly cancer patients from the hospital to the area where they live or continue to live in the area. In addition, we were able to provide specifics on the elements required of a nurse to assist elderly cancer patients in transitioning to a place of living and continuing to live in the community in which they live.

研究分野：高齢者看護学

キーワード：高齢者　緩和ケア　生活の場の移行　看護師　教育枠組み

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

地域医療構想を策定し、病床の削減を推しすすめるわが国では、医学的処置や管理が必要にもかかわらず、サービスを受けることが出来ない医療難民の多発が懸念されている。この問題に対応するため、在宅サービスや施設サービスの提供体制が整備され、積極的な治療から緩和ケアに転換した高齢がん患者（以下、高齢がん患者とする）が訪問看護を利用しながら自宅や介護保険施設で療養生活を継続できるようになった。しかし、今日においても、病院などの医療機関で死を迎える高齢がん患者は依然として高い割合を占めている。

地域包括ケアシステムとは、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、医療や介護などのサービスを切れ目なく一体的に提供する体制のことをいう。高齢がん患者が病院から住み慣れた地域に療養の場を移行し、そこでの生活を継続していく過程において、認知症などの他の疾患をもつ高齢者とは異なるニーズを抱えている可能性がある。したがって、高齢がん患者のニーズに即した支援体制を構築する必要があり、且つ、看護師はその体制の中で専門性に基づいた独自の役割を果たすことが期待されているのではないかと考えられる。

以上を踏まえ本研究では、高齢がん患者の支援に携わる看護師の実践力の向上を目的とした教育枠組みを構築することにした。

２．研究の目的

本研究の目的は、高齢がん患者が療養の場を病院から住み慣れた地域に移行したり、その地域での生活を継続していく過程に携わる看護師のための教育枠組みを構築することである。

３．研究の方法

本研究では 2 つの調査を実施した。2017 年度調査は首都圏にある病院、訪問看護ステーション等に所属する看護師 21 名を対象とした。2019 年度調査は、首都圏にある訪問看護ステーションや在宅療養支援診療所等に所属し、現任教育に従事した経験をもつ看護師 5 名を対象とした。

両調査では高齢がん患者の療養の場の移行時に実践している看護の現状、看護を実践する中で学ぶ必要があると感じていること等を尋ねた。なお 2019 年度調査では、2017 年度調査の分析結果を教育枠組み案として提示し、不足する視点や有用性に関する意見も収集した。

両調査における対象者の語りは逐語記録にし、「療養の場の移行や、住み慣れた地域での生活の継続に影響する」と思うこと、高齢がん患者に対する看護を実践するために「学ぶ必要がある」と認識していることや「学ぶために用いている手段」を示す記述を抽出し、類似性に沿ってカテゴリー化した。

４．研究成果

(1) 看護師が認識している「高齢がん患者の療養の場の移行や、住み慣れた地域での生活の継続に影響する要因 」

調査対象となった看護師が「高齢がん患者の療養の場の移行や、住み慣れた地域での生活の継続に影響する」と認識していたものとして、《ケア提供者の要因》《高齢がん患者の要因》《家族の要因》の 3 カテゴリーが抽出された。このうちの《ケア提供者の要因》は、〈苦痛症状に対応できていない〉〈サービスの調整ができていない〉〈介護職が不安を抱えている〉〈移行のタイミングを意識できていない〉〈支援の方向性が統一できていない〉の 5 サブカテゴリーで構成されていた。また、《高齢がん患者の要因》は、〈苦痛症状が強い〉〈家族への気兼ねがある〉〈在宅療養に対する強い希望がある〉〈入院することで安心感を得る〉〈病状を理解できていない〉の 5 サブカテゴリーから、《家族の要因》は〈病状変化に対する不安が大きい〉〈介護負担が重い〉〈家族による協力体制が整っていない〉〈サービスの利用に抵抗がある〉〈家で看取りたいと思っている〉の 5 サブカテゴリーから成り立っていた。

(2) 高齢がん患者の療養の場の移行や、住み慣れた地域での生活の継続に向けた看護を実践するために「学ぶ必要がある」と看護師が認識していること

高齢がん患者の療養の場の移行過程等に携わる中で、看護師は《症状のマネジメント》《本人中心の支援》《チームアプローチ》に関する学びを深め、実践力を高めていく必要性を指摘していた。このうちの《症状のマネジメント》は、高齢がん患者への対応時に求められる特有の知識と経験を反映したカテゴリーであり、〈苦痛症状の緩和〉〈予測的・予防的な対応〉の 2 サブカテゴリーから構成されていた。《本人中心の支援》は、がん患者に限らず地域の中で高齢者を支援していく際に看護師に求められる基本的な態度や技術を反映したカテゴリーであり、〈尊厳を守る態度〉〈価値観の再認識の必要性〉〈自立を支援する生活援助技術〉の 3 サブカテゴリーで構成されていた。《チームアプローチ》は、組織や職域という枠組みを超えて高齢者を地域の中で支えていくことを反映したカテゴリーであり、〈他部署・他職種の活動内容〉〈他部署・他職種との連携方法〉〈相手の立場に立った情報提供〉の 3 サブカテゴリーで構成されていた。

また、これらの学びを得るために、看護師は日ごろから《意見を交換し合う》《教えを受ける》

《現場を体験する》《自学自習をする》《実践を繰り返す》《体験談を聞く》《模倣する》《実践を振り返る》という手段を活用していることが示された。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計0件

〔学会発表〕　計3件（うち招待講演　0件／うち国際学会　2件）

１．発表者名 Tomoko Sugimoto, Chikako Takayanagi, Mikiyo Torita, Kazue Mori, Kyoko Saeki
２．発表標題 Learning needs of nurses who support the discharge of elderly cancer patients
３．学会等名 Aging & Society: 8th Interdisciplinary Conference（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 杉本 知子、森 一恵、鳥田 美紀代、佐伯 恭子、高柳 千賀子
２．発表標題 国内文献のレビューに基づくがん高齢者の地域生活への移行や移行後の生活の継続に影響を与える要因の検討
３．学会等名 日本看護科学学会
４．発表年 2017年

１．発表者名 Tomoko Sugimoto, Kazue Mori, Chikako Takayanagi, Mikiyo Torita, Kazue Mori, Kyoko Saeki
２．発表標題 Examination of the utility of the skill up education framework
３．学会等名 11th International Association of Gerontology and Geriatrics (IAGG) Asia/Oceania Regional Congress, Taipei（国際学会）
４．発表年 2019年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	森　一恵 (Mori Kazue) (10210113)	関西国際大学・看護学部・教授 (34526)	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	鳥田　美紀代 (Torita Mikiyo) (50325776)	東邦大学・健康科学部・准教授 (32661)	
研究分担者	佐伯　恭子 (Saeki Kyoko) (70433183)	千葉県立保健医療大学・健康科学部・講師 (22501)	
研究分担者	高柳　千賀子 (Takayanagi Chikako) (60310314)	東京情報大学・看護学部・准教授 (32515)	